

小鳥屋

リースル・カールシュタット 「ご苦勞様。小鳥屋の配達の方ね。

カール・ファレンティン 「ご在宅でしょうか？」

L K ずっと待ってたのよ。もう来ないのかと思ったわ。

K V 小鳥と籠です。こちらが請求書になります。

L K 確かに あれっ、ピーコちゃんはどこかしら？ この鳥籠は空よ。

小鳥はどこなの？

K V 中にいるはずですよ。

L K いるはずって、どっいうこと？ 中には何にもいないわ。

K V そんなことは考えられませんな。空の籠なんてお届けしませんよ。

L K それじゃ、自分で中をのぞいてみなさいな。

K V のぞく必要はございません。何といてもうちには信用ある店なんです。

もし手前どもが空の籠を、それも小鳥なしでお届けなどしたら、お客様方が何とおっしゃるとお思いですか。当方のお客様サービスには抜かりはございません。

L K 抜かりはないって、どっいうこと？ 抜かりはあるわよ、小鳥が抜けてるわ。

K V それでは運んでいる間に逃げたんですな。籠の口が開いていて。

L K 何をおっしゃるの。口が開いてたなんてあり得ないわ。口は閉まっています。

K V 閉まってる？

L K もちろん。

K V それなら中にいるはずですよ。

L K でも中にはいないわよ。

K V 奥様、そんなことはあり得ませんよ。口が閉まっていれば小鳥は外へ出られませんですよ。

L K でも、この場合は外に出してしまったにちがいないわ。さもなければ中にいるはずなもの。

K V 中にいるはずですよ。絶対、間違いありません。請求書をご覧ください。

下さい、小鳥が請求書に載っているかどうか。

L K そりゃあ、載ってるわ。鳥籠と小鳥、十三マルク。

K V ほら、そうでしょう。うちの店の主人が「鳥籠と小鳥、十三マルク」と請求書を書いておきながら、鳥籠と小鳥ではなく、鳥籠だけを配達させるとおしいですか？ 籠だけでも仕方ないし、小鳥だけでも仕方ない。それじゃ、塩の入ってないスープみたいなものですよ。

L K どうするんですか？

K V 代金をいただかなければなりません。全部で十三マルクです。

L K 全部でって、どういうこと？

K V 籠と小鳥で。

L K でも小鳥はいないのよ。ちゃんと受け取っていないものにお金は払えません。

K V それなら、商品は全部、引き揚げさせていただきます。

L K 商品を全部ね、結構だわ。籠だけなのに。小鳥はいないんだから。

K V 奥様、小鳥は入ってたんですよ。

L K それなら、どこでいなくなったと言っの？

K V それは問題じゃありません。とにかく請求書には「鳥籠と小鳥、十三マルク」と、あるんですから。

L K それなら鳥籠と小鳥を配達してくれないといけないわ。

K V 今度の場合はちがいます、奥様。あとは小鳥だけを配達すれば完了です。

L K どうして小鳥だけなの？ 籠もいるわ。

K V 籠はもうお持ちではありませんか。籠まで逃げたとは、おっしゃらないでしような。

L K 何を言っんです。籠はもちろんあります。あとは小鳥だけを持ってきてくれればいいのよ。

K V 小鳥だけの配達はしておりません。いつも籠と小鳥はセットなんです。

L K うちには籠だけを配達したくせに、小鳥なしで。

K V でも請求書には「鳥籠と小鳥」、「ほら」「鳥籠と小鳥」って、なっているんですよ。

L K あなたの馬鹿話を聞く筋合いはないわ。(ドアをボタンと閉める)

K V 鼻先でドアを閉めやがった。でもこの奥さんを責められないんだよな。

小鳥は本当に入っていないんだもの。請求書には確かに載ってるんだけど、「鳥籠と小鳥」って。